

# Mintetsu Report

## 特集：相互直通運転による利便性・速達性の向上

[ネットワークを拡充する相模鉄道の取り組み]

### えちぜん鉄道&福井鉄道

# 暮らしの足元を支える フェニックス田原町ライン

2016年に始まったえちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れ。

これにより沿線住民は新たな利便性を獲得すると共に、未来への希望も得た。

雪国福井において、降り積もる雪をものともせずに行き通る鉄道は

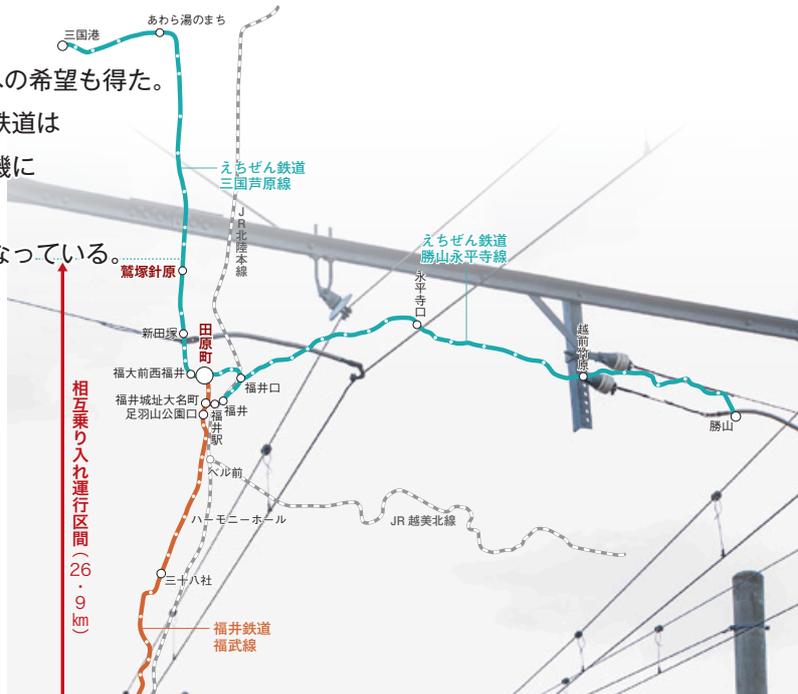
生活に欠くべからざるものであるが、相互乗り入れの開始を機に

えちぜん鉄道と福井鉄道への評価はさらに高まり、

街を走り抜けるカラフルな車両は、今や沿線住民の誇りともなっている。

取材・文●伏島賢二

撮影●加藤有紀



「ki-bo」と「FUKURAM」。二つを合わせて「希望、ふくらむ」と読む

## 鉄道と路面電車が接続

今号の「みんなでつ」の特集テーマは「相互乗り入れ」である。大きく取り上げるのは神奈川県を走る相模鉄道、JRならびに東急電鉄との相互乗り入れとのこと。「とすると、Mintetsu Reportは神奈川県……」。横浜市在住のわたしにとっては、あまりに近すぎる。旅気分が味わえないなあと少々がっかりしていたら、担当編集者から福井県に行きますと声が掛かった。ありがたい。

でもなぜ福井なのだろう。福井にはえちぜん鉄道と福井鉄道という二つのユニークな民鉄があり、隣り合うその



福大前西福井駅でki-boとFUKURAMが行き違う

線。◎三国芦原線が北側に、福武線が南側に、ほぼ南北に真っ直ぐ伸びているが、この2路線が田原町駅で2016年3月につながったのがフェニックス田原町ライン。ただし三国芦原線側は終着駅まで行くのではなく、途中の鷺塚針原駅までだ。

2社は2016年3月に相互乗り入れを開始。それが至極評判が良いようだ。加えてこの2路線をつなぐ「フェニックス田原町ライン」には大きな特徴がある。それは軌道も走るということだ。季節は冬。福井は雪国。自動車と同じ道路を進む路面電車には除雪などに独特の苦労があるだろう。そういったことも取材できたということだ。福井に向かうことになったのだ。ここで簡単ではあるが、フェニックス田原町ラインとはどのような路線なのか、整理したい。

◎えちぜん鉄道側は、東尋坊の最寄り駅である三国港駅と、福井県福井市の中心街にありJR北陸本線との乗り換えもできる福井駅を結ぶ三国芦原線。

◎福井鉄道側は、福井県越前市の中心街といえる武生たけふにある越前武生駅（少々離れているがJR北陸本線に乗り換え可能）と、学生の姿を多く見かける田原町駅を結ぶ福武線。

◎車両は低床の専用車両を使う。えちぜん鉄道の車両の愛称は「エーゴ（キーボ）」。福井鉄道は「FUKURAM（フクラム）」だ。

## 笑顔あふれる車両

さて、そんなフェニックス田原町ラインに早速乗車してみた。午前中に鷺塚針原駅から南下して越前武生まで。午後に逆コースをたどって北上。行きはエーゴで、帰りはFUKURAMに乗る計画だ。

「なんて愛らしい！」。それがエーゴと対面した最初の感想である。黄色いボディに丸い瞳。連結器のカバーと思われる部分は楕円で、それがポカンと空いた口元のように見える。車内は明るい。窓が広いからだろう。それと、天井が高いというのもある。見上げると、頭上の棚はガラス製。思わず伸びをしてしまいたくなる開放感だ。ふんわりと座り心地のよいシートは明るいグレイで、ヘッドレストのあたりは黄色。今日はどんよりとした曇り空だが、なんだか楽しくなってしまう。30代ぐらいのお父さんに手を引かれた小さい男の子が乗ってきたが、「すっごい！ すっごい！」と大興奮していた。

車窓はというと、映っているのは一面の田園風景だ。冬の今は雪景色。佇んでいるのは白鷺だろうか。その向こうに丘。次第に緑が濃くなる春も、虫が大合唱する夏も、黄金色の秋も、良

い風情だろう。

九頭竜川を鉄橋で越えたあたりからエーゴは住宅街に入り、最初の駅が新田塚。お年寄りが何人か降りて行った。どこに行くのだろうか。

エーゴはさらに南下。福大前西福井駅では逆方向から来たFUKURAMとすれ違った。

さて、田原町駅を過ぎるといよいよお楽しみの軌道区間だ。路面電車というのにはなぜ楽しいのだろう。大きなボディで街中に闊入もたらする、その異物感？ 日常からちょっとだけ逸脱する感じ？ 信号でエーゴが停まったら、わたしのすぐ横、手を伸ばしたら触れてしまいそうなどところにトラックの運転手の顔があつてギョッとした。こっちはエーゴの客席。首にタオルを巻いたお兄さんはトラックの運転席。いやあ、路面電車は面白い。

ベル前という不思議な名前の駅がある。ベルというのは駅前にある大きなショッピングモールの名前で、だからベル前。気取らなくてわかりやすいこの名前ににんまりとしてみよう。買い物に行くのだろうか、30〜40代ぐらいの女性数人がここで下車し、また、エコバッグを提げた年配の女性に乗ってきた。

車窓の景色は次々と変わる。今は雪をかぶった田園。大きなカブトのような建物の県立音楽堂ハーモニホール。三十八社駅では時間調整のため停まったが、待つ時間も楽しい。



左上/鷺塚針原駅。低床ホームにki-boが停車する。向かい側のホームが三国芦原線専用の高床ホーム 上/ki-boの車内 左下/こんなカッコいい電車だから子どもたちの人気は絶大 下/越前武生駅で。オレンジと緑のFUKURAMが並ぶ



福井鉄道の車両基地がある北府(きたふ)駅を過ぎ、やがてエーゴは終着の越前武生駅に滑り込んだ。

## クールなデザインのFUKURAM

午後はFUKURAMに乗って北上した。越前武生駅で対面したFUKURAMは、クールでカッコいいイメージ。切れ長の眼がジャパニーズビューティー。FUKURAMとエーゴは基本的な部分はほぼ共通だ。だが、これだけイメージが変わるのだ。ボディカラーはオレンジ、ブルー、グリーン、桜色の4色。FUKURAMが走ると福井の街に華やかな風が吹く。

越前武生駅でも鉄道ファンの親子を見た。小学校低学年くらいの子と40代くらいのお父さん。男の子は席に膝をつけて伸び上がり、運転手に釘付けだった。女の子も見かけた。幼稚園児くらいの子は、バッジからマフラーから全身鉄道グッズだらけ。えちぜん鉄道も福井鉄道も、子どもたちに愛されている。

## 相互乗り入れで一気に10万人増加

さて、先に新田塚駅でお年寄りの方が降りていったと書いたが、その種明かし。新田塚には大きなクリニックがあり、そこに通う方が利用するのだ



えちぜん鉄道株式会社  
営業開発部 部長

**佐々木大二郎**  
Daijirou SASAKI

とえちぜん鉄道営業開発部の佐々木大二郎部長が教えてくれた。「相互乗り入れで使っているエーゴとFUKURAMは低床車両ですから、乗り降りがラクなんです。また、ホームも低く、バリアフリーです。足腰の悪い方や車椅子の方がエーゴとFUKURAMを狙って乗車してくださる。相互乗り入れを始めてよかったですと感じることの一つです」

えちぜん鉄道も福井鉄道も、相互乗り入れのフェニックス田原町ラインを始めてから乗客が大幅に増えたという。「開始して1年で一気に10万人増えました」と佐々木部長。最も増えたのは学生客だそうだ。「弊社の福大前西福井駅周辺には学校が密集しています。高校が二つ、大学が一つです。福大前西福井駅は田原町駅の隣の駅なのですが、相互乗り入れ開始前は、福井鉄道に乗って来られた学生のお客さまの中に、田原町駅で下車して1駅分歩く方が少なくなりました。そうしたお客さまが、相互乗り入れ開始後にどんと増えたという格好です。便利になりましたし、連絡運賃で割り引



左上／鷲塚針原駅を出て九頭竜川を渡ると市街地が広がる 上／福井鉄道は、赤十字前駅付近にある鉄軌分岐点から田原町駅まで、軌道区間となる 左下／田原町駅。この日は大学生でにぎわっていた 下／なんとも愛らしい。ki-boの顔(?)を思わず撮影



いていまずので運賃もあまり変わらないです」

### 相互乗り入れの波及効果

学生客に、通院のお客さん。そしてショッピングモールへの買物客。フェニックス田原町ラインは住民の日常に寄り添う路線だ。東尋坊やあわら温泉、永平寺と、えちぜん鉄道沿線には観光地もあるが、それらはフェニックス田原町ラインの範囲外。福井鉄道に至っては、まさに地元密着という感じだ。福井鉄道鉄道部の白崎正臣主任は「ですからわれわれに興味を持っていただくことが大事です。SNSやイベントを通して魅力を発信し、ファンを増やしていくことを意識しています。また、もっと気軽に乗っていただけるよう、QR決済などの便利な仕組みの導入も進めています。その際にはもちろん、えちぜん鉄道さんとの協力は欠かせません」と話す。

相互乗り入れは単に線路がつながって便利になったというだけではないと、白崎主任も佐々木部長も口を揃える。相互乗り入れによって利便性を再認識した福井の人たちの中に、鉄道はかけがえのないものだという意識が定着した。存在感を増した両鉄道に対して、行政は積極的に協力するようになり、そして何より、えちぜん鉄道と福井鉄道の連携が深まった。それは共通

割引チケット、ふるさと納税の返礼品、振替輸送、工事の共同発注など多岐にわたっているという。

2023年度末にはいよいよ北陸新幹線が福井にやってくる。それに伴い、北陸本線の石川県境から敦賀駅間は新しく設立される鉄道会社に移管される予定だ。「北陸本線とはこれから事業連携を行います。すでに勉強会を何度も行い、具体的な検討を行っています」と白崎主任。えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れで始まった、周囲を巻き込む連携の流れとお互いを尊重する文化が、北陸新幹線の開業によってもう一段階先に進むのである。

ところで雪にまつわる苦労だが、今シーズンは大雪というほどではないというで、この原稿を書いている2月中旬現在、雪による遅延はなし。昨年が大雪だったので、両鉄道に加えて道路管理者とも協議を重ね、万全の対策で構えていたそうだが、取り越し苦労に終わりそうだ。とはいえこのような連携体制の強化は必ず役に立つ。こうしたことができるようになったのも、相互乗り入れのおかげなのである。



福井鉄道株式会社 鉄道部 主任

## 白崎正臣

Masaomi SIRASAKI